

平成24年度 事業報告書

(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)

学校法人 北都健勝学園

～ 「ともに学び・ともに生きる」 北都健勝学園 ～

北都健勝学園は 20 年目を迎えました。平成 6 年、村上の地に創設されてから、多くの医療人を、地域社会に還元すべく優れた人材を育成して参りました。

新潟リハビリテーション専門学校は平成 25 年 3 月をもって閉校となりましたが、その魂は大学に引き継がれております。これからも学生とともに学び地域とともに生きる、新しく小さな大学だからこそ果たせる知識の共有と透明性の獲得が、困難な新しい時代を切り開く原動力になると考えております。また、こうしたきめ細やかな人間性の育成は、新潟看護医療専門学校へも受け継がれ、お陰様でこちらは開学 10 周年を迎えることができました。

北都健勝学園は、世界水準の医療教育機関として、次世代の社会を担う医療人の育成に、さらに尽力して参りたいと存じます。本学園の運営につきまして、ご理解を賜りますとともに、さらなるご支援をいただけますようお願い申し上げます。

学校法人 北都健勝学園

理事長 的場巳知子

目 次

ご挨拶

I. 法人の概要 1

1. 法人の名称
2. 事業所の所在地
3. 認可年月日
4. 建学の精神
5. 法人の沿革
6. 設置する学校・学科及び関連施設
7. 定員、学生数の状況
8. 役員等の概要
9. 評議員の概要
10. 教職員の概要

II. 事業の概要 4

1. 法人本部
2. 新潟リハビリテーション大学 医療学部
3. 新潟リハビリテーション大学 大学院
4. 新潟リハビリテーション専門学校
5. 新潟看護医療専門学校

III. 財務の概要 21

1. 概況説明
2. 経年比較
3. 収益事業

I. 法人の概要

1. 法人の名称 学校法人北都健勝学園
2. 事業所の所在地 新潟県村上市上の山 2 番 16 号
3. 認可年月日 平成 6 年 12 月 8 日

4. 建学の精神

現代医療並びに社会福祉に対応できる専門知識を有し、医療スタッフの一員としての責任感と協力の精神に満ちた人材を育成し、21 世紀における高齢化社会の医療と福祉に貢献しようとするものである。

5. 法人の沿革

月 日	内 容
平成 6 年 10 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーション専門学校設立準備室開設
平成 6 年 12 月	学校法人北都健勝学園寄附行為認可(新潟県) 新潟リハビリテーション専門学校設置認可(新潟県)
平成 7 年 4 月	新潟リハビリテーション専門学校開学 (理学療法学科 作業療法学科 言語療法学科) 理学療法士 作業療法士施設指定承認(厚生省)
平成 10 年 12 月	新潟リハビリテーション専門学校 言語療法学科から言語聴覚学科に科名変更 言語聴覚士養生所指定承認(厚生省)
平成 12 年 4 月	新潟リハビリテーション専門学校(理学療法学科) 入学定員増(40 名)認可 (新潟県・厚生労働省) 新潟リハビリテーション専門学校 鍼灸療法学科 学科増設認可 (新潟県・厚生労働省)
平成 12 年 4 月	新潟看護専門学校設置認可(新潟県)
平成 16 年 4 月	新潟看護専門学校開学 (看護学科)指定承認(厚生労働省)
平成 17 年 12 月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座 3-3-7)開設
平成 18 年 7 月	癒しのサロンFOU鍼灸院村上(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)開設
平成 19 年 1 月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成 19 年 4 月	新潟リハビリテーション大学院大学開学
平成 20 年 11 月	癒しのサロンFOU鍼灸接骨院(東京都中央区銀座 3-3-7)閉鎖
平成 21 年 9 月	新潟リハビリテーション専門学校鍼灸療法学科指定申請取消
平成 21 年 10 月	新潟リハビリテーション大学院大学設置認可(文部科学省)
平成 22 年 1 月	新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院 (新潟市西区みずき野 2-20-38)開設
平成 22 年 3 月	新潟リハビリテーション専門学校 理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科 募集停止届提出(新潟県)
平成 22 年 3 月	新潟看護専門学校校舎各室用途変更認可(厚生労働省関東信越厚生局)
平成 22 年 3 月	新潟看護医療専門学校東洋医療学科設置認可(厚生労働省関東信越厚生局)
平成 22 年 4 月	新潟リハビリテーション大学院大学開学 新潟リハビリテーション大学院大学から新潟リハビリテーション大学院に校名

	変更届提出(文部科学省)
平成 22 年 4 月	新潟看護専門学校から新潟看護医療専門学校に校名変更し、東洋医療学科増設
平成 22 年 4 月	癒しのサロンFOU村上閉鎖
平成 22 年 4 月	村上東洋医療センター開設(訪問治療)(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)
平成 23 年 8 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック(心療内科)開設(新潟県村上市上の山 2 番 16 号)
平成 24 年 3 月	学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック診療科目追加(精神科、小児科)(新潟県村上市上の山2番16号)
平成 24 年 6 月	新潟リハビリテーション大学収容定員関係学則変更認可申請書提出(文部科学省)
平成 25 年 1 月	新潟リハビリテーション専門学校廃止認可(新潟県)
平成 25 年 3 月	新潟リハビリテーション専門学校 理学療法士・作業療法士・言語聴覚士養成所指定取消(厚労省)
平成 25 年 3 月	新潟リハビリテーション専門学校閉校

6. 設置する学校・学科及び関連施設

(1)学校名:新潟リハビリテーション大学

学 部:医療学部

学 科:リハビリテーション学科

専 攻:理学療法学専攻、言語聴覚学専攻

住 所:〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

研究科:リハビリテーション研究科

専 攻:リハビリテーション医療学

コース:摂食・嚥下障害コース、高次脳機能障害コース

住 所:〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

(2)学校名:新潟リハビリテーション専門学校

学 科:理学療法学科, 作業療法学科, 言語聴覚学科

住 所:〒958-0053 新潟県村上市上の山 2 番 16 号

(3)学校名:新潟看護医療専門学校

学 科:看護学科、東洋医療学科

住 所:〒950-2264 新潟市西区みずき野 1-105-1

(4)施設名:新潟看護医療専門学校附属東洋医療センター鍼灸治療院

業務の種類:はり、きゅう

住 所:〒950-2264 新潟市西区みずき野 2-20-38

(5)施設名:村上東洋医療センター(訪問)

業務の種類:はり、きゅう

住 所:〒958-0053 村上市上の山2番16号

(6)施設名:学校法人北都健勝学園 新潟リハビリテーションクリニック

業務の種類:心療内科、精神科、小児科

住 所:〒958-0053 村上市上の山2番16号

7. 定員、学生数の状況(平成 25 年 3 月 31 日現在)

	新潟リハビリテーション大学			新潟リハビリテーション専門学校			新潟看護医療専門学校		合計
	理学療法学 4 年制 定員 40 名	言語聴覚学 4 年制 定員 40 名	研究科 2 年制 定員 12 名	理学療法 4 年制 定員 40 名	作業療法 4 年制 定員 20 名	言語聴覚 4 年制 定員 30 名	看護 3 年制 定員 40 名	東洋医療 3 年制 定員 30 名	
1 学年	63	24	2				45	15	149
2 学年	44	29	4				41	8	126
3 学年	39	8					38	2	87
4 学年				29	10	2			41
合計	146	61	6	29	10	2	124	25	403

8. 役員等の概要(平成 25 年 3 月 31 日現在)

理事(定数 7 人以上 10 人以内):現数9人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	備考
理事長	的場 已知子	常勤	平成 14 年 10 月 就任
理事	野田 忠	常勤	平成 23 年 3 月 就任
理事	小野 敏子	常勤	平成 17 年 4 月 就任
理事	平井 顯徳	常勤	平成 22 年 4 月 就任
理事	伴 雅史	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
理事	川崎 久	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
理事	加藤 幹司	非常勤	平成 22 年 10 月 就任
理事	田宮 崇	非常勤	平成 22 年 11 月 就任
理事	原田 慎司	常勤	平成 22 年 4 月 就任

監事(定数2名):現数2名

監事	若穂田 正英	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
監事	鳥田 次郎	非常勤	平成 22 年 4 月 再任

9. 評議員の概要(平成 25 年 3 月 31 日現在)

評議員(定数 15人以上21人以内):現数21人

区分	氏名	常勤・非常勤の別	備考
評議員	平井 顯徳	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	大澤 源吾	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	小野 敏子	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	宇津木 努	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	塚原 智弘	常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	星野 浩通	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	高橋 圭三	常勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	川崎 久	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	浦壁 英紀	常勤	平成 22 年 4 月 再任

評議員	石橋 政雄	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	海藤 是夫	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	渡邊 好博	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	郷内 秀樹	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	金内 善昭	非常勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	近 貴 司	常 勤	平成 22 年 4 月 再任
評議員	山村 千絵	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	加藤 豊広	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	松林 義人	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	櫻井 晶	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	野田 忠	常 勤	平成 22 年 4 月 就任
評議員	小田 奈美枝	常 勤	平成 22 年 4 月 就任

10. 教職員の概要(平成 25 年 3 月 31 日現在)

区 分	新潟リハビリテーション 大学		新潟リハビリテーション 専門学校		新潟看護医療 専門学校		計	
	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務	本務	兼務
教 員	22	54	9	3	14	40	45	97
職 員	10	2	0	0	4	2	14	4
計	32	56	9	3	18	42	59	101

II. 事業の概要

1. 法人本部

平成 24 年度は、本学園の発展の基礎を築いた新潟リハビリテーション専門学校が閉校を迎える年度に当たり、誕生から 4 年目を迎えようとしているリハビリテーション大学の定着と発展を見据えた静かな閉校に向けて、教職員一同心を合わせて準備に当たった。リハビリテーション専門学校で培われた地域医療やチーム医療、統合医療への思いは、新しい大学や看護医療専門学校により良い形でバトンタッチされつつある。リハビリテーション専門学校の閉校を機に、学園全体の結束と協力・協調が進み、その力は「3 校合同スポーツ大会」や「閉校記念感謝祭」などを成功に導く源となった。

地域の方々をはじめ、同窓生の方々からの本学園に対する期待は年ごとに大きくなっていると同時に、援助・協力の輪も広がっており、とりわけ 24 年度は多くの方々から寄付をお寄せいただいた。来年度には、本学園への寄付金の税額控除が適用される見込みである。こうした多くの方々からの期待やご芳情に報いるべく、さらに努力を続け、地域・社会に有用な人材の育成と研究を深めることが使命である。

大学では、学長を中心として有機的に働く大学組織の基礎作りが進んでいる。さらに、今後の中長期計画を円滑に推し進められるよう、学園全体としての長期展望とサポート体制が求められるところである。来年度、初めての卒業生を輩出することになるが、卒業までのきめ細かい指導体制構築はもちろんのこと、卒業後の対応も含めて十分な学生指導・援助を実現し、学生の満足度を引き上げられるようサポートを継続しなければならない。

新潟看護医療専門学校では、東洋医療の学生確保に向けて人材配置を考慮しサポートを行い、ある程度の成果が上がったと考えている。看護学科においては、人的確保に向け努力を行った。

教職員の衛生環境整備に関しては、衛生委員会の報告を得ながら活動をサポートしてきたが、委員長をはじめとする委員の努力で研修会なども開催されるなど、かなり成果が上がってきたと思われる。

昨年度8月に開業した新潟リハビリテーションクリニックは、教職員に対する福利厚生の一環として、また学生や地域への還元、収益事業の強化などを目指して運営してきたが、徐々に利用者が増えており、地域での役割も少しずつ定着してきたと思われる。

海外提携に関しては、昨年度に続き、韓国を筆頭に外国との提携、学術・人材交流の検討を積極的に進めた。

学園の理念・目的の周知徹底には、分かりやすい説明責任を果たすこと、より具体的な提示をすることなどにおいて一層の努力が必要であるとの認識を新たにしている。小さい学園ながら、その小ささを生かしたきめ細かさやアットホームな雰囲気や学生とともに学び成長する本学の個性が、より力強く明確なイメージとして社会的に評価されるよう、創意工夫していくことが望まれる。

学園教職員の健康に関する取り組み

法人特別委員会である衛生委員会は、教職員の健康障害の防止、健康の保持増進、労働災害の防止及び快適な職場環境を形成することを目的に、年間の活動計画に沿って、目的を達成するために、会議、巡回調査、研修会等を実施している。

平成 24 年度衛生委員会取り組み一覧

4月	教職員定期健康診断 24日 衛生委員会	
5月	29日 衛生委員会 NUR・NRC 会議 30日 衛生委員会 NNC 会議	
6月	教職員定期健康診断(予備日) 就業衛生環境調査 21日 衛生委員会 委員会広報誌いぶう通信発行(第2号)	
7月	19日 衛生委員会 NNC 会議 27日 衛生委員会 NUR・NRC 会議 NNC リフレッシュ研修	
8月	20日 衛生委員会 NNC 健康診断後調査 31日 第2回教職員健康セミナー(NNC) 普通救命講習会(NNC)	巡回調査基準作成 経絡ストレッチ体操 講師 NNC 平井顯徳
9月	3日 第2回教職員健康セミナー (NUR・NRC) 14日 衛生委員会 NUR・NRC 会議 28日 衛生委員会 NNC 会議 28日 NUR・NRC 巡回調査	経絡ストレッチ体操 講師 NNC 平井顯徳
10月	19日 衛生委員会 NUR・NRC 会議 25日 NNC 巡回調査 29日 衛生委員会 NNC 会議	
11月	インフルエンザ予防接種 29日 衛生委員会	教職員・同居家族に補助 500円
12月	インフルエンザ予防接種 21日 衛生委員会	
1月	21日 衛生委員会	

2月	冬季巡回調査 21日 衛生委員会	
3月	18日 衛生委員会 いふう通信発行(第3号)	

2. 新潟リハビリテーション大学 医療学部

(1) 事業報告概要

本年度は学部開設から3年目にあたり、過去2年間で着実に推し進めてきた大学の管理・運営体制の改善・充実を更に進め、その基本体制がほぼ確立され、教育の質向上を一層推進させることができた1年間であった。

開設以来、課題とされてきた作業療法学専攻の設置が年度の途中で認可されたため、来年度に向け学生募集を開始し、平成25年度の作業療法学専攻の新入生を確保することができた。

本学は大学院開設から通算すると今年度は6年目であり、開設後7年以内に受審が義務付けられている外部認証評価機関による大学認証評価に対して、その準備を今年度から開始した。そして来年度(平成25年度)受審予定の外部評価に耐え得る体制を整備し、必要書類を作成した。

大学認証評価と密接に関連する大学教育の質的向上に重点を置き、FD委員会主導のもとに、定期的なFD研修会を開催し、本学の念願であった紀要が創刊され、教育の質保証をさらに堅実に推進した。

学生生活を円滑に有意義に過ごせるように学生生活全般に対応することのできる学生支援室を新たに設立した。また学生会、保護者会の活動も本格的に始動し、軌道に乗せることが出来た1年間であった。

教育の質保証とともに教育機関にとってもうひとつの重要事項である財政基盤の安定に向けても真剣に取り組み、学生数の確保及び支出の削減に努めた。

医療学部が今年度(平成24年度)に取り組んだ諸事業の概要は次のとおりである。

(2) 作業療法学専攻の設置に関して

開設以来検討を重ねてきた作業療法学専攻の設置が年度の途中で文科省より認可され、来年度(平成25年度)開設に向けて担当教員の招へい及び学生募集を行った。教員は6名(教授1名、准教授3名、講師1名、助教1名)を採用し、初年度はそのうち4名が着任の予定である。作業療法学専攻の学生募集は他の2専攻から遅れて年度の途中から開始されたが、作業療法学専攻設置準備室員及び入試委員会委員らの努力により、公募推薦入試、センター試験、一般入試等において33名の新入生を確保することが出来た。リハビリテーション医学領域の主要な位置を占める作業療法学が設置されたことによって、ようやくリハビリテーション医学領域の専門大学として真のスタート位置につくことができ、本学発展の節目となる年度となった。

(3) 学生確保に向けた取り組みに関して

- a. リハビリテーションの専門大学としての概要が正しく理解できるように、本学のホームページの修正を適宜行い、大学パンフレットも明るく親しみやすいものとし、大学のイメージ改善に努めた。
- b. 各高校の進路指導教諭に対し、本学の説明を丁寧に行った。特に言語聴覚士および作業療法士に対する認知度が未だ低いため、それらの将来性の有望さを含めて説明を行った。
- c. 中学生及び高校生に対して、理学療法士、作業療法士及び言語聴覚士に対しての認識を高めるために各学校に赴き、それらの職種に対する理解を深めるための出張授業を行った。
- d. 特に言語聴覚学専攻の学生確保のために、LSVT(LOUD)が学会の研修会プログラムの中に組み込まれたことを紹介し、本学の言語聴覚学領域における主導性のアピールを行った。

また、新潟県言語聴覚士会に働きかけ、言語聴覚の日である9月1日に、大学主導で、村上市において、新潟県として初めての啓発イベントを行い、言語聴覚について啓発するとともに大学をアピール

した。

- e. 入学試験は推薦試験、一般試験に加え、AO試験、社会人試験、センター試験も採用し、多角的な能力評価のもとに選抜を行い、多様な学生の確保を図った。
- f. その結果、リハビリテーション学科全体の入学定員は確保(入学定員 120 名に対して入学者 120 名)したが、言語聴覚学専攻、作業療法学専攻の 2 専攻については、入学者は定員に若干及ばなかった。
- g. 一般の奨学金に加え、村上市との協力のもと実現した村上市奨学金、さらに本学独自の奨学金制度も引き続き充実させ、優秀な学生の確保に努めた。
- h. 学生の退学・休学を予防するため、チューター制を活用し、個々の学生に対し積極的に状況把握に努め、きめ細やかな相談助言を行った。

(4)外部認証評価機関による認証評価について

大学院開設から 7 年以内に受審が義務付けられている外部の認証評価機関(本学は大学基準協会の審査を受ける予定)による認証評価の準備を開始した年であった。実質的な受審は来年度(平成 25 年度)であるが、その受審に際しては適切な組織の構築とその運用、さらにそれらを正確に報告するための膨大な書類が要求され、多大な時間と労力を費やさなければならない。そのため今年度中に外部評価に完璧に耐え得る組織構築・運用・自己評価、そして受審のための必要書類を周到に整備することに全精力を注いだ。その具体的な対策として、自己点検・評価委員会を学長、副学長、研究科長、学部長、学科長、専攻長、学生部長、図書館長、大学事務局長で構成し、副学長をその統括責任者とした。さらにその下部組織として、大学内各委員会及び各部署毎に選出されたメンバーで組織される作業部会を構成し、それらを中心に自己点検・評価報告書の作成を 2 週間毎に定期的に行った。それらの作業部会からの各書類をもとに自己点検・評価委員会が統一のとれた報告書の原案を作成し、来年度(平成 25 年度)に予定されている正式な外部評価受審に備えた。

(5)教育の質的向上を目指した取り組みに関して

- a. 教員の採用については、作業療法学専攻の教員以外ではリハビリテーション医療に関連した教育及び研究等の業績、さらに十分な臨床経験を積んだ 1 名の理学療法学専攻教員、および言語聴覚学専攻教員 2 名(ST1 名、心理 1 名)を採用した
- b. 学生の成績評価を厳格に、且つ透明性及び社会的説明責任を明らかにするため、成績を 5 段階で評価するグレード・ポイント・アベレージ(以下 GPA)制度を採用し、その適切な運用によって厳格な成績評価を行った。
- c. FD 委員会主導のもと、定期的(今年度は 3 ヶ月毎、計 4 回の FD 研修会を開催)に教育の質改善を目標とした内容の FD 研修会を今年度も継続して実施した(下記平成 24 年度 FD 委員会研修会活動報告表を参照)。
- d. 新任教員には FD への取り組みの理解、自己啓発意欲の向上、さらに本学の教育理念及び本学の専任教員としての心構えの理解等を主目的とした新任教員研修プログラムを作成し、年度初めの第 1 回 FD 研修会として行った。
- e. 7 月と 2 月、学生に対し「講義に関するアンケート」を実施した。教員の能力向上、講義内容の改善を目指すため、その集計結果を各教員にフィードバックした。さらに一部の講義を全教員に公開し、批判的視点からの良否検討を行い、講義技術の向上を図った。
- f. 各教員の担当講義科目に関連する学会、研究会、さらに教員の自己啓発に有用と思われる各種研修会には可能な限り各教員が参加するよう奨励した。それら種々の成果を基盤として、これまで開学以来の念願であった本学の紀要を創刊することができた記念すべき年となった。
- g. 昼休み時間を利用してランチョンセミナーをサロン教室にて全教員の参加を原則として行い、各教員の研究成果の紹介を行い、それに関して質疑応答を行い、教育・研究の質向上を図ることができた(今年度 3 回開催)。

- h. また国際交流の一環として学生の講義の中に外国人による特別講義を組み込み、学生の視点を海外にも向けさせ、国際交流意識の向上を図った。学生から多くの活発な質問があり、その目的は十分達せられたと思われる(今年度3回開催)。

平成24年度FD委員会研修会活動報告表

月	日	主な活動	活動内容
4月	9日(月)	第1回FD委員会	①平成23年度FD活動報告 ②平成24年度FD活動計画
5月	14日(月)	公開講義	・講師:的場 巳知子教授・担当科目:精神医学概論 ・時間:12時15分~13時00分 ・参加者:18名
6月	6日(水)	新任教員研修 (第1回FD研修会)	・テーマ:I部 新潟リハビリテーション大学を知る II部 本学におけるFDの取り組み ・講師:山村千絵教授、 参加者:新任教員2名出席(1名欠席)
	11日(月)	第2回FD研修会	・テーマ:GPAの仕組みとその活用法 ・講師:浅海岩生教授・時間:15時~16時・参加者:18名
7月	中旬~下旬	講義に関するアンケート実施	前期終了科目に対して、講義に関するアンケートを実施。
8月	中旬~下旬	講義に関するアンケート集計・分析	アンケート集計・分析
9月	初旬~中旬 10日(月)	講義に関するアンケート集計・分析 第3回FD研修会	アンケート集計・分析 ・テーマ:「講義に関するアンケート」に関する報告 ・講師:松林義人助教、時間:15:30-16:30、参加者:17名
10・11月		自己点検・評価委(FD作業部会)	大学評価に対するFD関係資料作成
12・1月		自己点検・評価委(FD作業部会)	大学評価に対するFD関係資料作成
2月	18日(月)	第4回FD研修会	・テーマ:ねえ!理学療法って知ってる? ・講師:灰田信英教授、時間:15:30-16:30、参加者:17名
	中旬~下旬	講義に関するアンケート実施	後期及び通年科目に対して、講義に関するアンケートを実施。
3月	上旬~下旬 11日(月)	アンケート 第2回FD委員会	アンケート集計・分析。 ①平成24年度FD活動報告 ②平成25年度FD活動報告(案作成)

(6)地域連携を深めるための取り組みに関して

学部開設以来、2年間にわたり本学の特色を明確化し、他大学との相互補完に重点を置き、下越地域における各大学間の積極的な連携を推進してきた。そして、地域社会との連携では、村上市各地区で開催されている長寿大学等の教育文化活動に積極的に参加し、大学を地域に開かれたものとしてきた。また地域との連携を深めるため、これまでの各種の講演会を新潟リハビリテーション大学セミナーの名のもとに統一して行ってきた。中学校や高等学校に出張しての授業も積極的に行い、言語聴覚学専攻学生の確保とも関連するが、地域の中高生に本学を身近なものとして認識させ、本学への関心を高めるよう努力してきた。

地域社会との連携では、とくに地域の老人クラブの要請で始めた「転倒予防教室」が文部科学省の科学研究費助成の対象として採択されたことは、今後の本学と地域社会との連携のあり方を考える上で、非常に大きな意味を持つものといえる。

(7)学生支援室の設立に関して

開学以来、学生生活を円滑に送ることができるようフレッシュマンセミナーに力を注ぎ、学生部が主体となりクラスアドバイザーやチューターを介して学生の種々の問題に対応してきた。今年度は学生生活をさらに充実させるために、学生生活における各種の相談、学生の基本情報管理、学習支援、キャリア支援等を再構築し統合した新しい組織を構想し、それを「学生支援室」として新たに設立することに取り組んだ。従来の各種相談を学生の基本情報とともに学生支援室で集中管理とすることにした。支援室で管理する情報として学生の基本情報に加え、学生のメンタルヘルスを含む学生の健康管理情報、学業成績に関連した教務情報、臨床実習に関する情報等全てが含まれる。さらに学生に対する学習支援体制を充実させるために、各専攻毎にピアラーニングを主体として、助手や院生とともに成績良好な学生がリーダーとなり学

生同士で学習支援体制を構築してゆく。またサポート講座の名のもとに学生が不得意とする分野の補講も適宜行ってゆく。キャリア支援は従来のもよりも広域に及ぶものとして再構築し、就職に対する支援、国家試験に対する支援、さらに卒後の就職支援や転職に関しても支援してゆくことにした。これら学生生活における様々な支援体制を前述したように再構築し、新たに「学生支援室」の名のもとに統一し、来年度よりその活動を開始してゆく予定である。

(8)学生会及び保護者会について

学生会は開学年度の平成22年10月に発足、活動を開始した。毎年6月下旬の学園祭、10月上旬の体育祭、この2つが学生会の企画運営する最も大きな行事である。学園祭は多くの地域住民の参加もあり盛大で成功裡に終了することができ、地域に溶け込んだ恒例行事の一つになりつつある。また体育祭も、今年度を最後に閉校する専門学校と大学、さらに各学年と各専攻に分かれての対抗戦形式で白熱した競技が行われ、学生間の交流を深める事ができた。そのほかにも新入生の歓迎会や、本年度で閉校する専門学校卒業生の送別会等を企画し、日々の学生生活が楽しく円滑にかつ有意義なものとなるよう活動を行った。課外活動としては、運動系サークルが9サークル(バレーボール・バスケットボール・野球・武道・ダンス・サッカー・バドミントン・ランニング・オールラウンド)に、文化系サークルが3サークル(アート・マンガ・軽音楽)となり、計12サークルが活発に活動を行った。

保護者会に関しては、第2回保護者会が平成25年3月20日に開催された。保護者60名を超える参加があり、教職員を含めて80名以上を数える盛会となり、活発な意見が交換され親睦を深めることができた。

また学生の通学の便を考え、村上駅・大学間及び坂町駅・大学間のスクールバスの運行を開始した。運行本数も1日7往復となり(朝4往復、夕3往復)、認知度も十分に高まり利用者も増加してきている。現在では満員の時多くなり、学生・教職員の利用はさらに高まると予想されるため、さらに来年度からは運行回数を増やして行く予定である。

(9)財政基盤の安定に関して

学部がスタートして丸2年を経過した今年度も、言語聴覚学専攻は未だ認知度が低く、志願者が少ないことが懸念されたが、平成25年度は32名の入学者を確保することができ、また作業療法学専攻は年度途中からの学生募集開始で入学者の大幅な定員割れも危惧されたが、33名の入学者を確保し理学療法学専攻と合わせてリハビリテーション学科としての定員120名を確保した。本年度は年度当初より定員の充足を最重点課題として活動を行ってきたが、言語聴覚学専攻の定員確保に関してはまだ不十分であり、来年度は言語聴覚学専攻でも定員を満たすよう更なる努力が必要である。作業療法学専攻に関してもリハビリテーション領域における作業療法の重要性を説き、その認知度を高めるべく努力をし、作業療法学専攻の定員40名を確保すべく尚一層の努力を継続してゆく。収入面の大きな要因である学生確保に最善を尽くす一方、支出に関しては教育の質維持・向上を至上目標とした上で、コストパフォーマンスを重視し、熟慮を重ねた上での支出を心掛けた。さらに一層の経費削減に努力してゆく。大学に対する寄附行為に対しても適切な対応が速やかに可能となるよう体制作りを進め、規則の整備を継続して行っている。来年度以降も更にこれらを積極的に推し進めてゆく。

3. 新潟リハビリテーション大学 大学院

(1)事業報告

平成24年度は大学院開学から6年目に当たり、翌7年目に受審する財団法人大学基準協会の認証評価に向けて、自己点検評価報告書の作成に全力で取り組んだ1年であった。報告書作成は、これまでの活動実績を振り返り、更なる発展へと繋げていくための良い機会と捉えることができた。また、研究科修士生に対する満足度調査を実施し、教育・研究に関する満足度を確認するとともに、問題点の抽出を行った。

そして、次年度以降の新たな事業として、平成25年度よりスキルアップセミナーとタイアップした講義を展開することや、平成26年度に向けて新しいコースを立ち上げることを決議した。これらについては、具体的に平成25年度より検討していく事となる。

<カリキュラム・講義>

- a. 平成24年度からは、開学当初の旧カリキュラムが適用される学生は在籍なくなり、すべての学生に新カリキュラムが適用される形での教育・研究指導体制となった。
- b. カリキュラム外に、大学院生及び教職員を対象とした高度で専門的な内容を含む特別講義を下記の通り開催した。今年度は、耳鼻咽喉科医師を講師としてお招きしたが、前述の研究科修了生満足度調査において、耳鼻咽喉科領域からの話題を提供してほしいとの要望があり、即座に対応を行ったものである。

講師：大前 由紀雄 先生（耳鼻咽喉科医師）

（医療法人 尚寿会大生病院（埼玉県狭山市）耳鼻咽喉科科長）

日時：平成24年11月22日（木） 13:00～16:10

場所：本学サロン教室

講義内容：根拠に基づいた嚥下障害の臨床—耳鼻科医の視点から

1コマ目 根拠に基づいた嚥下障害の診療を目指して—嚥下を科学する

2コマ目 嚥下障害に対する外科治療と気管切開への対応

<研究指導>

- c. 平成24年度修了生は4名であり、全員が通常履修2年の課程で修了した。このうち、摂食・嚥下障害コース修了生は3名、高次脳機能障害コース修了生は1名であった。男女別の内訳は男性3名、女性1名であった。またフルタイムの職に就きながら履修し修了した者は2名であった。各修了生の修士論文題目と指導教員は、以下のとおりである。

* 摂食・嚥下障害コース

・平田和晃「食物の硬さが口腔内での味の広がり認識に及ぼす影響—甘味の場合—」

指導 山村千絵

・水野智仁「若年健常者における頸椎装具使用時の頭部の角度変化が嚥下のしやすさに与える影響」指導 山村千絵

・山崎友賀「果汁飲料を黄色いコップで飲むと酸味やおいしさは増強するか」

指導 山村千絵

* 高次脳機能障害コース

・小川洋介「頸部回旋の違いが立ち上がり動作へ及ぼす影響 —運動学的分析の観点から—」

指導 浅海岩生 佐藤舜也

提出された修士論文は、全員分をまとめて、修士論文集として発刊した。

- d. 学位規程に基づき、大学院修了生は1年以内に、修士論文研究を印刷公表することとなっている。修了生のうち、平成24年度中に学位論文研究が学術雑誌に原著論文として採択公表されたものは、以下の通りである。

・原口裕希、山村千絵：健常者の体幹および頭頸部の姿勢変化が咀嚼の効率に及ぼす影響、理学療法科学、27(2): 171-175, 2012.

・金子雄太、山村千絵：健常者の頭頸部を含む座位姿勢変化が呼吸機能に及ぼす影響、日本摂食・嚥下リハビリテーション学会雑誌、16(2): 131-139, 2012.

・藤間紀明、山村千絵：エスプーマ調理器で泡状に加工した納豆の咀嚼・嚥下特性—テクスチャー検査と官能検査—、日本咀嚼学会雑誌、22(2): 113-121, 2012.

なお、大学院修了生の研究成果は、上述した修士論文研究以外の研究についても多数、学会発表されたり、学術雑誌に論文が掲載されたりしている。

<研究資金獲得>

- e. 外部資金として、日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金を以下の通り、継続して獲得することができ、当該研究課題はもちろん、広く教育研究にも使用できる機器類を多く設置することができた。

平成23～25年度 基盤研究(C)「新しいソフトチーム技術を応用して咀嚼・嚥下困難者用食材を調整する」主任研究者 山村千絵 直接経費 4,000,000 円、 間接経費 1,200,000 円

<規程の改定、管理運営>

- f. 平成24年度から大学院の入学定員を24名から12名へ削減した。このための学生募集は平成23年度に実施済みのため、学則変更届も23年度中に提出済みであるが、学則の変更期日は平成24年4月1日となっている。

・大学院学則(入学定員、収容定員変更関係)平成24年4月1日付変更

また、学則以外の規程類も、毎年随時、実情に合うように見直しを行っている。平成24年度に新たに制度を創設したものに関しては、関係する規程に文言を追加したほか、自己点検評価報告書の作成に際し、法人や学部との各種規程類の整合性確認がなされた結果、微細な文言の修正を行ったものもある。整備された規程類は、教員全員に冊子体で配布するとともに、サーバー内で管理している。大学院独自(学部と共通のものは除く)の規程のうち、平成24年度中に改定した規程は以下の通りである。

・新潟リハビリテーション大学大学院特待生制度規程(医療学部成績優秀者受け入れに関する文言追加)平成24年5月16日付変更

・新潟リハビリテーション大学大学院研究生等に関する規程(科目等履修生から本専攻に入学する場合の学費減免制度を新たに設けることに関し文言追加)平成25年1月23日、3月11日付変更

・研究科委員会規程(微細な文言の修正)平成24年6月4日付変更

・大学院入学者選抜委員会規程(微細な文言の修正)平成24年6月4日付変更

・研究科長選考規程(微細な文言の修正)平成24年6月4日付変更

・研究科長選考規程実施細則(微細な文言の修正)平成24年6月4日付変更

・大学院教務部規程(微細な文言の修正)平成24年6月4日付変更

- g. 大学院開学以来、3回目となる研究科長選挙を実施し、現研究科長が再選され、平成25年度から4期目の活動を行うこととなった。

<FD 活動>

- h. 財団法人大学基準協会の認証評価に向けて、自己点検評価報告書を作成した。

- i. FD 活動、授業評価活動は、学部との共同実施により、発展・強化した。定期的な教員研修のほか、公開授業参観も行った。

- j. 研究科修了生に対する満足度調査をアンケート形式で実施した。結果を抜粋すると、「講義に満足、おおむね満足は 100%、研究指導に満足、おおむね満足は 100%、大学院生活が満足・おおむね満足は 89%」等であった。

(2) 学生確保に向けた取り組み

- a. 社会人でも働きながら通いやすい体制(①長期履修制度、②一人一人の希望タイムスケジュールを重視して編成した講義時間割、③Eメールを利用した連絡や指導 等)を、より一層強化し、市外の病院に勤務する社会人も、病院勤務を続けながら計画通りの履修を行うことができた。

- b. 専門学校就職相談会へ大学院ブースを出展した。何人かの学生は立ち寄ってくれたが、今年度の大学院入学には結びつかなかった。しかし、専門学校を卒業し臨床を何年か経験した後に、院で勉強したいという声が多く聞かれたので、将来の入学に繋がってくれることを期待する。

また、平成26年度入試に向けて、学部からの入学者を確保すべく、学部生の保護者に対しては、平成24年度医療学部保護者会(平成25年3月20日実施)時に、学部3年生(新4年生)に対しては平成25年3月25日に、大学院を紹介するための時間を設け、パワーポイントにて説明を行った。今後もこのような機会を定期的に設けていく。

- c. 論文や学会発表等を通じて、本大学院の研究成果が広く知られるようになり、全国から問い合わせや資料請求がくるようになった。ここから入学に繋がるよう引き続き努力していきたい。
- d. 修士論文発表会や修士論文提出締め切り前、特に研究の進度が思わしくない学生に対しては、夜間、休日にかかわらず指導に当たり、全員修了を目指している。その結果、修了年次生の休学や退学は見られない。
- e. 優秀な学部生の入学を推進するため、経済的サポートとしての特待生制度を本学学部卒業生向けに充実させた。実際の運用は平成26年度入試からとなるが、特待生の資格として、「新潟リハビリテーション大学医療学部を卒業した者あるいは卒業見込みの者で、医療学部在籍中4年間(卒業見込みの者にあつては、当該入学試験日までの期間)の通算 GPA が 3.0 以上の者。」を追加した。
- f. 社会人学生の入学を促進するため、科目等履修生から本専攻に入学する際の学費減免制度および単位移行のきまりなどを整備し、研究生等に関する規程に新たに盛り込んだ。制度の実施方法の概要は以下の通りである。
 - ①単位移行は 10 単位まで可、②単位移行は 5 年間有効、③減免額は全額科目等履修生から本専攻入学する場合の社会人に対するメリットは、以下の通りであり、この制度を周知していき社会人入学生の確保に努めていく。
 - ・入学時期の4月を待たずに、随時、受講を開始することができる。
 - ・本専攻の通常履修2年間あるいは長期履修3年間で履修すべき単位の一部を科目等履修生の期間(任意の期間)に修得しておくことで、本専攻期間は余裕のあるスケジュールで過ごすことができる。

(3)教職員並びに教育の質的向上を目指した取り組み

- a. FD 委員会主導のもと、新任教員研修からはじまり、以後、定期的な FD 研修会を実施した。
- b. FD 委員会は、学生による授業評価ならびに教員へのフィードバックを行い、高評価の教員の公開授業参観を実施した。
- c. 他大学や機関での研修の機会が得られる場合には、参加を奨励した。
- d. 科研費をはじめとする外部資金の獲得のため、応募申請を奨励した。
大学院所属教員はすべて学部所属教員でもあるので、FD 活動については学部と共通で行っている。詳細については学部の同項目記載箇所を参照していただきたい。

(4)財政基盤の安定に向けて

- a. 学生確保、定員充足が難しい状況の中、大学院の適正な定員について継続審議を行ってきた結果、平成24年度より入学定員12名・収容定員24名とすることが決まり実施された。学生数及び定員充足ともに厳しい状況ではあるが、学部卒業生が輩出される25年度に向けて、教育研究体制をさらに充実させていきたい。
- b. 内部資金のみでは限界があるなか、外部資金として、日本学術振興会科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金を継続して獲得することができ、当該研究課題はもちろん、広く教育研究にも使用できる機器類を多く設置することができた。また間接経費を使用して学内の諸設備を充実させることができた。今後も多くの外部資金を獲得できるよう、研究意識を高めていきたい。

4. 新潟リハビリテーション専門学校

(1)平成24年度の概要

平成 24 年度は閉校の年度に当たり、①円滑な閉校に向けての活動、②学生教育の充実、③国家試験対策強化を主要課題として教職員一同総まとめの作業に当たった。

姉妹校の大学ならびに看護医療専門学校、新潟総合研究所の協力、援助も大きく、3校合同スポーツ大会、閉校記念感謝祭をはじめ、「ゆめ」の閉校記念特集号としての編集など、閉校準備関係の事業を円滑に実行できた。

(2)閉校に向けての活動

a.「閉校記念感謝祭」の開催

平成 24 年 10 月 27 日(土)、大学、看護医療専門学校の協力を得て、本学校舎内で地元の方々を対象とした「閉校記念感謝祭—専門学校の歩みと学園のこれから—」を開催した。

メインテーマ:「認知症の予防と対応」

講演:閉校記念講演「専門学校の歴史と地域とのかかわり」 学校長

:特別講演 ①お茶の間話「認知症の初期症状と対応について」 伊林克彦氏

②お昼の憩い話「体を動かして認知症を予防する」 松林義人氏

体験・相談コーナー : 言語聴覚コーナー「認知症予防に健脳体操」

: 作業療法コーナー「認知症予防体操」

: 理学療法コーナー「いつまでも歩ける体づくり」

: 東洋医療コーナー「生活習慣病予防」

: 看護コーナー 「認知症の方とのかかわり方」

こども相談コーナー:小児科医師 和田有子氏

展示コーナー:「新潟リハビリテーション専門学校の歩み」

:職業紹介(VTR)

当日は、他の多くのイベントが重なった影響もあり、参加者はごく少なかったものの、講演、体験コーナーともに熱心に参加していただいた。新聞社の取材もあり、新潟日報はじめ3つの新聞に掲載された。

b.3校合同スポーツ大会の開催協力

平成 24 年 9 月 29 日(土)、荒川総合体育館において、大学、看護医療専門学校、リハ専門学校の協力で準備を進めたスポーツ大会を開催した。姉妹校 3 校の教職員・学生全員が集合する初めての催し物となった。3 校混合のチーム編成と豊富なプログラムのもと、学園全体の力が結集された有意義な 1 日を共有することができた。

c.「第 15 回卒業証書授与式」、「閉校式」挙行、「閉校記念昼食会」開催

平成 25 年 3 月 7 日(木)、平成 24 年度卒業証書授与式を挙行し、五十嵐進新潟県理学療法士会副会長、横田剛同作業療法士会会長、井口光開同言語聴覚士会会長より祝辞をいただいた。卒業証書授与式において県の 3 つの関係団体から祝辞を頂戴するのは初めてである。また、3 月 28 日(木)、特別プログラムで卒業を目指させていた最後の 1 名の追加卒業証書授与式を挙行し、第 1 期生から第 15 期生までの卒業生総数は 1259 名となった。

卒業証書授与式ならびに大学院の学位授与式終了後、教職員、卒業生、保護者のほか、50 名以上の来賓の方々にご列席いただいて「閉校式」を挙行した。学園に貢献した物故者の方々への黙禱、理事長からの関係者に対する感謝の辞に続き、学校長から準備期間を含めた約 19 年間の本校の足跡を紹介し、各方面の方々の長い間のご支援に対してお礼申し上げた。来賓を代表して大滝平正村上市長より、18 年間の専門学校の活動に対する労いと、新生した大学への期待のお言葉をいただいた。最後に、専門学校後援会(保護者ならびに賛同者で構成)から学長へ、記念品の目録が

贈られた。

閉校式に続いて「閉校記念昼食会」を開催した。ここにも多くの来賓の方々をご参加くださり、短時間ながら有意義な懇談が行われた。

d.ゆめ第9号(閉校記念特集号)特集部分の編集

地域と学園を繋ぐ実践集録「ゆめ」第9号を閉校記念特集号として刊行していただいた。新潟総合研究所のご援助、ご指導をいただきつつ、特集部分の原稿の取りまとめ、編集作業を行った(編集担当;山崎暁,児玉敏彦)。「ゆめ」は例年1月末刊行のところ、「閉校式」の様子を掲載する都合上、大幅に遅くなった(発行日は3月31日付)。

(4月後半ようやく納品され、各所にお届けした。)

e.「閉校記念品」の決定、学園への贈呈

平成24年5月の専門学校後援会総会の決議に基づき、「後援会」からの記念品を決定し、閉校式において、指村真貴子学校後援会副会長より野田忠学長へ目録(テント1張り)を贈呈した。

(3)教務関係

1)運営全般

a.授業関係

- ・授業管理
- ・講義依頼
- ・非常勤講師出勤簿管理
- ・講義関係備品および消耗品の管理等

b.試験・成績関係

- ・定期試験、追・再試験の実施および成績の管理等
- ・卒業生の成績等証明書の発行補助

c.実習関係

- ・レオパレスの申込みおよび契約
- ・実習謝金の取りまとめ
- ・レオパレス利用料、実習費用分担の精算

d.会議関係

- ・定例教務会議の運営(原則 毎週第1・2・4・5水曜日)
- ・単位認定会議の運営(4/17,4/25,5/30,6/4,7/25,10/16,11/6,11/30,2/6,3/19)
- ・卒業認定会議の運営(2/6,3/19)

e.その他

- ・infoClipperの管理および運用

2)閉校に向けた、成績の管理・保存方法等を含めた成績証明書発行に係るシステムづくりの検討

- ・これまで通り行っていくこととし、infoClipper導入後の卒業生については、infoClipperにて管理、出力。それ以前の卒業生については、Excelにて管理、発行。

(4)学生教育・指導の充実のために

a.卒業を目指させる「特別プログラム」の設定

平成24年度は閉校年度であり、閉校時に残留学生を作らないために、23年度から学業・実習成績が著しくふるわない学生を対象に、学生の意思を確認したうえで、卒業を目指させる「特別プログラム」を実施しており、教員一同協同して学生指導に当たってきた。

正規の実習で指摘された知識不足・勉強不足はもとより、コミュニケーション能力不足や自己表現の不得手、周囲への気配りの不足などを補うため、グループ学習、共同奉仕作業、保育所や老人施設での音楽・ゲーム披露などの他、臨床指導者の下での補習実習等々、積極的に学外での実習・研

修・交流の機会を作った。

理学・作業療法学科合わせて14名の対象者のうち、残念ながら3名は前期で退学となった。1名は年度末までかかったが何とか卒業に漕ぎつけた。残りの10名は昨年内に卒業の見込みが立って国家試験を受験し、9名が合格した。

b.臨床教育の充実を目指して

臨床現場の実情を踏まえた学生教育・指導を心がけるとともに、臨床実習指導者との連携強化を図った。また、実習終了後の学生指導の充実に努めた。とりわけ、特別プログラム履修学生の実習に関しては、頻繁な電話連絡・メール連絡の他、こまめな訪問を実施し、学生の現場での学びを援助した。

c.学生が抱える問題の適切な解決を図るための保護者との連携を目指して

臨床実習を筆頭に、国家試験受験対策、特別プログラムなどの進行途中、多くの学生が問題を抱えた。こまめで具体的な保護者への報告・相談を心がけ、また、必要に応じて複数回の面談を実施し、学生の状況を理解していただいたうえで、本人の成長を援助するための適切な協力体制構築に努めた。

d.就職支援のために

- ・平成24年度も学生の就職支援の一環として「就職相談会」を開催した。
(平成24年9月。出席企業数28。村上市民ふれあいセンター)
- ・郵送されてくる求人情報については、そのつど学生へ迅速に周知した。

e.ハラスメント防止対策の強化

- ・学内はもとより臨床実習での「ハラスメント」防止対策に力を入れ、実習前のオリエンテーションや事例に関する討論、実習後のアンケート、討論などを実施して、学生の意識向上を図った。

f. スクール・カウンセラーの活用

- ・平成24年度もスクール・カウンセラーの援助を得た。
- ・平成24年度相談実績
 カウンセリング実件数 1件
 カウンセリング延件数 5件

(5)国家試験対策

a.「国家試験対策特別講義」の継続

- ・現役4年生ならびに既卒生を対象に、国家試験対策特別講義を継続した。
(平成24年8月。3.5日間、約32時間。SRINT 篠原豊氏)。

b.国家試験対策合宿の実施

- ・言語聴覚学科4年生2名と教員とで、合宿形態での国家試験対策勉強を実施した。
(平成24年8月。2泊3日。ADL室)

c.外来講師による特別講義の継続

- ・言語聴覚学科国家試験特別講義(平成24年11月、12月。相馬敏郎氏)
- ・理学療法学科国家試験特別講義(平成24年12月。石井博之氏)

d.グループ学習の有効利用

- ・学生の孤立化を防止し、効率よいグループ学習が進捗するよう援助した。

e.定期的な面談の実施

- ・定期的な面談を実施して勉強の進み具合、心身の健康状態、意欲などを確認し、学生の実情に合った援助を心がけた。

f.学内模擬試験、全国一斉模擬試験の活用

- ・過去問題を中心に学科ごとで作成した学内模試を頻回・定期的実施したほか、主に業者による全国規模の模擬試験も積極的に受験するよう指導し、動機づけを図った。

g. 国家試験に対する決起会(あご固め)の継続

・平成 24 年度は、昨年度以上に大学の学生会が中心となって準備・運営に当たってくれた。今までの学生会活動を通して親しくなっている者同士が多く、和気あいあいに進行し、4 年生からは、強い動機づけの機会となったとの感想が寄せられた。（平成 25 年 1 月。学生食堂）

h.平成 25 年 2 月実施 国家試験結果

	新卒	既卒	総数	全国
理学療法士	25/29	7/11	32/40	88.7%
(第48回)	86.2%	63.6%	80.0%	
作業療法士	7/9	1/6	8/15	77.3%
(第48回)	77.8%	16.7%	53.3%	
言語聴覚士	2/2	2/27	4/29	68.1%
(第15回)	100.0%	7.4%	13.8%	

(6)教員の質の向上に向けて

a.参加学会・研修会

星野浩通

・県民公開講座 第 8 回感染症予防衛生講習会 （平成 24 年 6 月，新潟市）

児玉敏彦

・新潟県理学療法士会 教育研修会 （平成 24 年 6 月，新潟市）

・新潟県理学療法士会 新人研修会 （役員として参加。平成 24 年 10 月，新潟市）

・新潟県理学療法士会 学術集会 （役員として参加。平成 24 年 11 月，新潟市）

水野智仁

・第 47 回日本理学療法学会学術大会 （平成 24 年 5 月，神戸市）

・第 13 回日本言語聴覚学会 （平成 24 年 6 月，福岡市）

・第 17 回、18 回共催 日本摂食・嚥下リハ学会学術大会 （平成 24 年 9 月，札幌市）

高橋圭三

・第 13 回 日本言語聴覚学会 （平成 24 年 6 月，福岡市）

・第 25 回全国リハビリテーション学校協会教育研究大会教員研修会

（平成 24 年 8 月，福岡市）

山崎 暁

・第 13 回 日本言語聴覚学会 （平成 24 年 6 月，福岡市）

・第 22 回認知リハビリテーション研究会 （平成 24 年 10 月，東京）

・第 1 回日本ディサースリア学術集会 （平成 24 年 10 月，東京）

小野敏子

・第 24 回日本ハンドセラピー学会学術集会 （平成 24 年 4 月，横浜市）

・第 23 回東北作業療法学会 （平成 24 年 9 月，山形市）

・第 9 回新潟県作業療法学会 （平成 24 年 10 月，三条市）

- ・第 27 回日本 RA のリハビリ研究会学術集会 (平成 24 年 11 月, 松山市)
- 塚原智弘
- ・平成 24 年度 臨床実習指導研修会 (平成 24 年 10 月, 新潟市)

松尾真輔

- ・平成 24 年度 臨床実習指導研修会 (平成 24 年 10 月, 新潟市)

b. 定期的学外研修

- 水野智仁 新潟県厚生連瀬波病院(臨床研修) 毎週金曜日
- 高橋圭三 新潟大学大学院(博士課程) 毎週木曜日

c. 平成 24 年学内勉強会

- ・頸椎装具使用時の頭部の角度変化が嚙下のしやすさに与える影響 水野智仁 (5 月)
- ・健常者を対象とした座位姿勢の不安定さが咬合機能に及ぼす影響 水野智仁 (6 月)
- ・感染症予防衛生講習会報告 星野浩通 (8 月)
- ・脳卒中後嚙下障害のリハビリテーション 水野智仁 (8 月)
- ・国試対策について 松尾真輔 (8 月)
- ・クリニカル・クラークシップの紹介 高橋圭三 (9 月)
- ・実習中のハラスメント防止における学生のアンケート結果 高橋圭三(10 月)

d. 研究業績等

論文

- ・「表面筋電図の筋電量の解析による健常若年者の舌骨上・下筋群活動に及ぼす前舌保持嚙下法の影響」高橋圭三、倉智 雅子、浅海 岩生
(新潟リハビリテーション大学紀要 Vol.1, No.1 p51-60, 2012)
- ・「健常者における頭部の姿勢変化が嚙下時の甲状軟骨運動へ与える影響—超音波診断装置を用いた解析—」
水野智仁, 大窪慎一郎, 佐藤剛介, 松下真一郎, 阿志賀大和, 高橋裕二, 山村千絵
(日本摂食・嚙下リハビリテーション学会雑誌 16(3):276-282, 2012)

学会発表

- ・「頸椎装具使用時の頭部の角度変化が嚙下のしやすさに与える影響」
水野智仁, 阿志賀大和, 山村 千絵
(第 47 回日本理学療法学会 平成 24 年 5 月, 神戸市)
- ・「健常者を対象とした座位姿勢の不安定さが咬合機能に及ぼす影響」
阿志賀大和、水野智仁、山村千絵
(第 13 回日本言語聴覚学会 平成 24 年 6 月, 福岡市)
- ・「変性疾患の認知症における幻視と立方体模写に関する研究」山崎 暁
(認知リハビリテーション研究会 平成 24 年 10 月, 東京)

講演

- ・「おいしく、安全な食事支援のためにできること」高橋圭三
(平成 24 年度下越地区地域歯科保健研修会 平成 24 年 11 月 13 日, 新発田市)

研修会講師, 施設援助など

- ・「コミュニケーション障害に対する評価と対応」(講義と実習) 山崎 暁
(胎内リハビリ教室 年 4 回, 胎内市)
- ・「就労支援のための環境評価と対応」(評価と個別指導) 松尾真輔
(就労継続支援 B 型 つくし工房 月 1 回, 新潟市)

学会座長など

- ・第 23 回東北作業療法学会 公開講座
「発達障害児(者)への地域支援(講師:福田恵美子氏)」座長 小野敏子
(平成 24 年 9 月 30 日, 山形市)
- ・第 9 回新潟県作業療法学会 特別講演
「『OT 決別宣言』～今、作業療法の真価を問う～(講師:藤原 茂氏)」座長 小野敏子
(平成 24 年 10 月 28 日, 三条市)

小文その他

- ・「大海を泳ぎきって果たして大陸を見たか？」小野敏子
(新潟県作業療法士会ニュース No.105 巻頭言 2013 年 1 月 15 日発行)

他校の講義

- ・身体障害作業療法学(手外科領域, 末梢神経損傷) 小野敏子
(晴陵リハビリテーション学院 作業療法学科 2 年次後期 4 コマ)
- ・チーム医療学 小野敏子
(新潟リハビリテーション大学 理学・言語共通 1・2 年次後期選択 8 コマ)

(7)社会的活動

- ・村上笹川流れ国際トライアスロン大会
ボランティア活動(競技後の選手のアイシング) 星野, 大学教員, 大学生
(平成 24 年 9 月, 村上市)
- ・東日本大震災復興支援活動
福島ボランティアへの参加(県 OT 士会活動への協力) 塚原智弘
(平成 24 年 8 月, 会津若松市)
- ・村上・岩船地域自立支援協議会 委員 小野敏子
- ・新潟県言語聴覚士会 理事、学術局教育研修部長 高橋圭三
- ・新潟県言語聴覚士会広報部 委員 山崎 暁
- ・日本ディサースリア臨床研究会 総務部長 山崎 暁
- ・日本 RA のリハビリ研究会 顧問 小野敏子

(8)関係団体からの表彰、感謝状など

a.学生表彰

- ・日本理学療法士協会賞 理学療法学科 田邊裕次郎
:学業成績が優秀であった学生に対して、日本理学療法士協会より賞状と副賞として協会機関誌「理学療法」1 年分が贈呈された。
(平成 25 年 3 月 7 日, 卒業証書授与式において)
- ・全国リハビリテーション学校協会優秀賞 理学療法学科 長谷部克典
作業療法学科 市村 悠太
:学業成績が優秀であった 2 名の学生に対し、全国リハビリテーション学校協会より賞状が贈呈された。
(平成 25 年 3 月 7 日, 卒業証書授与式において)
- ・新潟県作業療法士会賞 作業療法学科 今井 健人
:学生会活動等を通して模範的な学生生活を送ったことに対して、新潟県作業療法士会会長より賞状と副賞として医学事典が贈呈された。
(平成 25 年 3 月 7 日, 謝恩会において)

b.本校への感謝状

・新潟県作業療法士会より、開学以来作業療法士の育成に尽力し、リハビリテーション医療の発展に貢献したとして、感謝状が贈呈された。

(平成 24 年 5 月 27 日, 新潟県作業療法士会総会表彰式において)

・新潟県言語聴覚士会より、開学以来多くの優秀な言語聴覚士を育成し、リハビリテーション医療の発展および言語聴覚士の社会的地位向上に貢献したとして、感謝状が贈呈された。

(平成 24 年 10 月 27 日, 閉校記念感謝祭において)

なお、平成 23 年 9 月 3 日、新潟県理学療法士会設立 40 周年記念式典において、他の 3 校とともに、永年理学療法士の育成に尽力し、理学療法の技術向上の発展に寄与したとして、感謝状をいただいている。

5. 新潟看護医療専門学校

(1) 事業報告

【学生教育・指導の充実】

- a. 教員による授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。
- b. 学生による授業に関する自己評価を実施し、次年度の授業改善に努めた。
- c. 学校運営評価を実施し、改善点を検討し、事業計画を立案した。
- d. 実習後、かなりの時間をかけて評価会議を実施し、実習の充実と学生の理解に努めた。
- e. 入学予定者に対し入学前指導を行う等、学生の基礎学力向上に努めた。

【教育環境の充実】

- a. 司書配置は実現していないが、委員会を設置し引き続き図書室の利用改善を検討中である。
- b. 学習環境に関するアンケートの集計結果から、改善点を整理し更に教育環境の充実を図る。

【国家試験対策】

- a. 学力が不十分な学生への早期指導を行う等、合格率向上を目指した指導徹底に努めた。
- b. 例年どおり全学年による合同模擬試験を実施し、国家試験合格率向上を目指した。
- c. 年間の時間割に予備校講師による特別講義を組み入れ、国家試験対策を強化した。
- d. 例年どおりチューター制による指導を実施し、国家試験合格率向上を目指した。

(2) 学生確保に向けた取り組み

- a. 昨年度に引き続き、学生募集委員会を中心として広報活動内容や入学試験実施計画を検討し、定員の充足に努めた。オープンキャンパス 3 回、学校独自(業者主催以外)の学校説明会 2 回に加え臨時学校説明会を 1 回開催した。その他、小中学校からの学校訪問(見学)や職業体験等の要望に対しては希望に応じ随時受け入れた。
また、新潟市内で開催されたイベントにブース参加する等、学校の知名度アップに努力した。
- b. 看護学科の A0 入学試験を行わなかったことにより、オープンキャンパスをはじめイベント参加者数が減少した。それが大きく影響し、東洋医療学科の学生募集が苦戦する結果となった。
今年度の状況を踏まえ、学生募集委員会を中心として広報の活動内容を検討した結果、業者に頼らず本校独自の活動を展開する方向とし、次年度広報活動の全面的な見直しを図ることとした。
また、次年度、A0 入学試験に代わる新たな入学試験を導入する。この入学試験の出願条件にはオープンキャンパス参加を義務づけることにしており、これによりイベント動員数を増やし、東洋医療学科の定員確保に繋げたい。

(3) 教職員並びに教育の質的向上を目指した取り組み

- a. 各専門科目(領域)の研修会参加を計画し、教員の質的向上に努めた。

b. 各担当(領域)の分科会を中心とした研修会参加により、個々の教員が質的向上に努めた。

月	研 修 名
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟看護協会 成人分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 総合分野情報交換会(新潟市) ・看護教員再教育研修 企画運営会議(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 現任教育委員会(新潟市)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・看護教員再教育研修 企画運営会議(新潟市) ・東洋療法学校協会広報委員会(東京都) ・災害支援ナース交流会(新潟市) ・『当事者心理教育プログラム・家族支援プログラム』 導入実践のための講習会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 総会・講演会(新潟市)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 老年分科会(新潟市) ・日本看護学校協議会 学校長会(東京都) ・新潟県看護教員の会 成人分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市)
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 成人看護分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市)
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋療法学校協会 教員研修会(愛知県) ・新潟看護協会 災害支援ナース研修(新潟市) ・新潟県看護教員の会 総会・講演会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 理事会(新潟市) ・看護教員養成講習会 未受講者の研修会(東京都)
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟手術室セミナーおよび新潟手術医学研修会幹事会(新潟市) ・ナーシング・グラフィカ創刊10周年記念特別研修会(東京都) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎分科会(新潟市) ・東洋療法学校協会 学術大会(東京都)

	<ul style="list-style-type: none"> ・いわふね国際交流協会歓迎会(村上市) ・日本看護学会 看護教育学術集会(岩手県) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市)
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟県看護連盟 看護記録研修会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 在宅看護論分科会(新潟市) ・東洋療法学校協会 学術大会(東京都) ・新潟県看護教員の会 看護教員キャリアアップ研修(佐渡市)
11月	<ul style="list-style-type: none"> ・リーダーのための業務改善徹底集中学習会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 看護教員キャリアアップ研修(新潟市)
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・東洋療法学校協会 救急蘇生法インストラクターリフレッシュ講習(東京都) ・東洋療法学校協会 学術委員会(東京都) ・災害看護研修(災害支援ナース養成コース・実践編)(新潟市) ・東洋療法学校協会 はりきゅう実技評価試験(東京都) ・日本看護学校協議会 副学校長・教務主任会(東京都) ・個人情報保護法に関する説明会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 基礎看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 精神看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 成人看護学分科会(新潟市) ・新潟県看護教員の会 老年看護学分科会(新潟市)
1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市消防局 応急手当普及員講習(新潟市) ・新潟県看護教員の会 現任教員委員会(新潟市)
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・日総研出版 在宅看護論研修会(東京都) ・日総研出版 教員研修 学生の理解が深まる授業設計 (東京都) ・東洋療法学校協会 倫理・法制委員会合同研修会(東京都) ・看護師と学校養成所教員研修会(新潟市)
3月	<ul style="list-style-type: none"> ・メディカ出版 看護師国家試験対策年間戦略策定セミナー(東京都) ・新潟県福祉健康部福祉保健課 看護師等養成所教員研修会(新潟市) ・東洋療法学校協会 全校連絡会(東京都)

(4)財政基盤の安定に向けて

学生確保について、看護学科は前年度を下回ったものの、入試倍率トータルで約5倍という好調を維持した。東洋医療学科は、看護学科のAO入学試験を行わなかったことに伴い、イベント参加者数が減少し、昨年度の入学者数を大幅に下回る結果となった。この結果を踏まえ、広報活動や入学試験制度を見直すことによりイベントの動員数増を図り、東洋医療学科の学生募集に繋げたい。

また、新たな入学試験制度導入に加え、東洋医療学科に限定したサポート制度や奨学金制度を整備することにより東洋医療学科の定員充足を目指す。

Ⅲ. 財務の概要

1. 概況説明

(1)全般概況

平成24年度の財務状況は経年比較(表1から表4)のとおりである。

学園全体の状況としては、新潟リハビリテーション専門学校が平成24年度をもって閉校、平成25年度よ

り学部の完成年度を迎えるとともに作業療法学専攻が増設となる。

平成 24 年度は学部の受験者増ならびに定員充足から資金収入ならびに帰属収入が増額となっている。また、消費収支差額比率については平成 22 年度△35.4%、平成 23 年度△20.1%、平成 24 年度△13.6%と少しずつではあるが回復している。作業療法学専攻増設に伴う若干の回収工事ならびに機器備品の補充は行なったが特に大きな資産取得はなかった。

今後も引き続き学生募集に全力を注ぎ経営が安定するよう努力する。

(2) 資金収支の状況

平成 24 年度の資金収支計算書は表2のとおりである。

平成 24 年度は学生生徒納付金が 5,332 万円の増、入学検定料は新潟看護医療専門学校の受験者が減少したものの、学部の受験者が増加したためほぼ昨年と同額になった。

また、寄附金収入についても新潟リハビリテーション専門学校の閉校記念誌発行に係る寄附金募集を積極的に行い、約 140 万円の増額となった。

支出の部の人件費増は学部教員、看護教員、事務職員の増員により、約 2,000 万円の増額となった。

また、作業療法学専攻設置に係る経費を法人本部の管理経費で支出したため約 760 万の増額となった。結果、資金残高は約 4 億 9,000 万円となり約 6,000 万円の増額となった。

(3) 消費収支の状況

平成 24 年度の消費収支計算書は表3のとおりである。

帰属収入は学生生徒納付金、寄附金収入の増加により前年度より約 6,100 万円の上回った。消費支出は前年度比で 3,400 万円、支出が増加しているが、主な要因は教職員の増員ならびに学生数増加による教育研究費の増加分となる。大学単体の消費収支差額は約 360 万円の収入超過となったが全体としては約 1 億 1 千万円の支出超過となった。次年度は学部の完成年度を迎えることや、作業療法学専攻の増設にともない、学生募集にさらに力を入れ、支出超過の回復に努める。

(4) 貸借対照表の状況

平成 24 年度の貸借対照表は表4のとおりである。

固定資産は作業療法学専攻の増設に伴う、校舎内の工事ならびに教育研究機器備品の購入により約 2,500 万円の増加となったが、約 8,350 万円の減価償却費が計上されたため約 5,600 万円の減少となった。流動資産(主に現預金)が約 5,800 万円の増加となり、資産の部全体では約 160 万円の増加となった。負債の部は前受金、短期未払金の増額により約 8,300 万円の増額となった。第1号基本金の増加については設備取得に伴うものである。

2. 経年比較

表 1

区分	全般比較 (平成 22 年度から平成 24 年度)			(単位:千円)
	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	
資金収入	632,397	666,093	743,680	
帰属収入	505,605	541,666	602,773	
基本金	2,322,800	2,357,766	2,368,915	
総資産	1,975,179	1,873,498	1,875,088	

表 2

資金収支計算書
(平成 22 年度から平成 24 年度)

【法人全体】

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	22 年度	23 年度	24 年度	科目	22 年度	23 年度	24 年度
学生生徒納付金収入	484,057	517,769	571,089	人件費支出	443,466	408,528	429,629
手数料収入	10,710	11,346	11,417	教育研究費支出	102,500	105,479	117,207
寄附金収入	0	953	2,370	管理経費支出	54,279	48,083	55,706
補助金収入	427	883	636	施設関係支出	0	0	3,469
資産運用収入	107	58	64	設備関係支出	52,402	11,404	21,899
資産売却収入	0	0	0	資産運用支出	3,321	278	76
雑収入	10,072	8,853	14,207	その他の支出	114,060	139,934	110,435
前受金収入	305,024	334,670	384,014	資金支出調整勘定	△36,695	△16,758	△56,195
その他の収入	103,916	102,195	103,685	次年度繰越支払資金	459,955	429,097	490,551
資金収入調整勘定	△281,918	△310,636	△343,802				
前年度繰越支払資金	560,893	459,955	429,097				
収入の部合計	1,193,291	1,126,049	1,172,779	支出の部合計	1,193,291	1,126,049	1,172,779

【新潟リハビリテーション大学】

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	22 年度	23 年度	24 年度	科目	22 年度	23 年度	24 年度
学生生徒納付金収入	117,080	240,375	336,896	人件費支出	186,016	186,699	222,033
手数料収入	4,870	4,145	5,526	教育研究費支出	41,827	52,237	64,007
寄附金収入	0	400	1,110	管理経費支出	25,649	23,707	27,140
補助金収入	124	0	0	施設関係支出	0	0	3,309
資産運用収入	0	0	4	設備関係支出	45,030	10,540	17,796
資産売却収入	0	0	0	資産運用支出	0	0	0
雑収入	1,801	3,019	5,557	その他の支出	12,365	12,653	16,422
前受金収入	134,604	185,000	232,404	資金支出調整勘定	0	△3,360	△9,596
その他の収入	11,988	12,653	15,651	次年度繰越支払資金	0	0	0
資金収入調整勘定	△7,350	△134,988	△185,000				
前年度繰越支払資金	0						
収入の部合計	263,118	310,605	412,149	支出の部合計	310,889	282,477	341,114

表 3

消費収支計算書

【法人全体】

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	22年度	23年度	24年度	科目	22年度	23年度	24年度
学生生徒納付金	484,057	517,769	571,089	人件費	445,564	412,510	428,031
手数料	10,710	11,346	11,417	教育研究経費	182,327	187,711	200,303
寄附金	230	2,659	5,177	うち減価償却費	79,826	82,231	83,096
補助金	427	883	636	管理経費	56,690	50,221	56,107
資産運用収入	107	58	64	うち減価償却費	2410	2,138	401
雑収入	10,072	8,949	14,387	資産処分差額	0	0	153
帰属収入合計	505,605	541,666	602,773	消費支出の部合計	684,581	650,444	684,597
基本金組入額合計	△38,887	△34,965	△9,519	当年度消費 収支超過額	△217,863	△143,743	△101,343
消費収入の部合計	466,718	506,701	583,253	前年度繰越 収支超過額	△505,523	△723,387	△867,130
				基本金取崩額	—	—	8,370
				翌年度繰越 消費収支超過額	△723,387	△867,130	△960,103

【新潟リハビリテーション大学】

(単位:千円)

収入の部				支出の部			
科目	22年度	23年度	24年度	科目	22年度	23年度	24年度
学生生徒納付金	117,080	240,375	336,896	人件費	186,250	190,885	220,261
手数料	4,870	4,145	5,526	教育研究経費	61,173	75,008	89,085
寄附金	0	2,105	3,917	うち減価償却費	19,345	22,771	25,077
補助金	124	0	0	管理経費	25,723	23,798	27,264
資産運用収入	0	0	4	うち減価償却費	74	91	123
雑収入	1,801	3,019	5,557	資産処分差額	0	0	153
帰属収入合計	123,875	249,645	351,902	消費支出の部合計	273,147	289,692	336,765
基本金組入額合計	△25,899	△26,826	△11,501	当年度消費 消費収支超過額	△175,171	△66,873	3,635
消費収入の部合計	97,976	222,819	340,400	前年度繰越 収支超過額	△160,082	△335,253	△402,126
				翌年度繰越 消費支出超過額	△335,253	△402,126	△398,491

表 4

貸借対照表
(平成 22 年度から平成 24 年度)

(単位:千円)

資産の部				
科 目	平成 22 年度末	平成 23 年度末	平成 24 年度末	うち大学
固定資産	1,500,824	1,430,543	1,374,204	249,452
有形固定資産	1,482,021	1,410,761	1,355,285	249,452
その他の固定資産	18,803	19,782	18,918	0
流動資産	474,354	442,955	500,884	316
資産の部合計	1,975,179	1,873,498	1,875,088	249,769
負債の部				
科 目	平成 22 年度末	平成 23 年度末	平成 24 年度末	うち大学
固定負債	24,391	23,809	24,787	18,008
流動負債	351,374	359,053	441,490	235,175
負債の部合計	375,766	382,863	466,277	253,184
基本金の部				
科 目	平成 22 年度末	平成 23 年度末	平成 24 年度末	うち大学
第 1 号基本金	2,273,800	2,308,766	2,319,915	332,289
第 4 号基本金	49,000	49,000	49,000	0
基本金の部合計	2,322,800	2,357,766	2,368,915	332,289
消費収支差額の部				
科 目	平成 22 年度末	平成 23 年度末	平成 24 年度末	うち大学
翌年度繰越消費支出超過額	723,387	867,130	960,103	335,704
消費収支差額の部合計	△723,387	△867,130	△960,103	△335,704
科 目	平成 22 年度末	平成 23 年度末	平成 24 年度	うち大学
負債の部、基本金の部及び消費収支差額の部合計	1,975,179	1,873,498	1,875,088	249,769

3. 収益事業

医療保険業を行っており、当期の状況は次のとおりである。

(1) 損益計算書	(単位:千円)
診療収入等	6,507
売上原価	967
期末棚卸高	124
売上総利益	5,663
諸経費	1,672
当期利益	3,991
(2) 貸借対照表	(単位:千円)
資産	15725 (うち現預金 14,715)
負債	41
元入金	11,898,017
繰越利益	3,785,993

